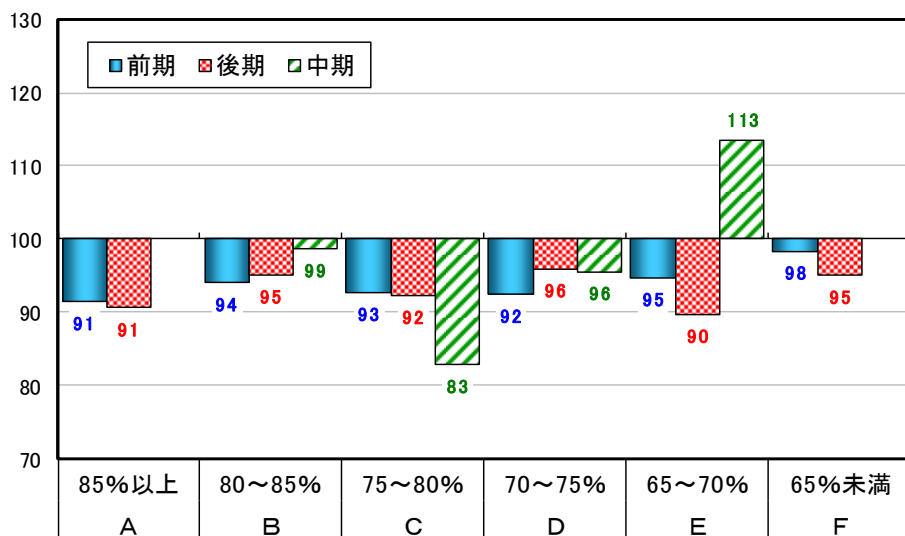


2020 年度入試状況分析【国公立大】

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎データネット目標ライン別志願者集計

□前期、後期は全てのグループが減少



左記のグラフは、2020 年度のデータネット(駿台予備学校/ベネッセコーポレーション主催、センター試験自己採点集計)において、募集単位ごとに設定された合格目標ライン(B判定ライン、合格可能性 60%)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で得点率により 6 つのグループ分けを行い、日程別に各グループの志願者数の増減を前年度対比指数で示したものです。

もともと、募集人員の少なく全体の志願動向を反映しない中期の E グループ(113)は増加しましたが、募集人員の多い前期、後期では全てのグループで減少しました。これは、センター試験の平均点ダウンの影響による弱気な出願、いわゆる「安全志向」が強まったことが大きく影響しました。

前期では、全グループが減少しましたが、合格目標ラインの低い E グループ(95)、F グループ(98)の減少率は小さくなりました。

後期でも、全グループが減少しました。A グループ(91)は医学部医学科の系統の不人気に影響しました。また、E グループ(89)は茨城大工学部、大分大理工学部などが大幅減少となったことが影響しました。

公立大のみの中期は、もともと対象大学が少なく募集人員も少ないため、特定大学に志願者が集中しやすく指数が大きく変化する傾向がありますので、単純に動向を示すことが難しいので、参考としてご覧ください。